

第二章 断第一期作战

(自七月六日
至十月五日)

陸軍

要目

一、七月初頭ニ於ケルビルマ一般戦况

ビルマ方面軍主力タル第十五軍ガ三月開始セル

インパール作战ハ五月初以來戦况交綏シ六月下旬

ニ於テハコヒマ方面ヲ放棄シ戦况我ニ有利ナラス

作战成功ノ見込絶エタリ

(全ク)

0046

35, /

又第三十三軍主力（第十八師団、第五十三師団）
北編ニ於ケル戦況重大化シモ一ニシテ附近ニ於
ケル戦線整理ノ見込絶エタルヲ以テ北編方面
ニ於ケル作戦ヲ中止シウエトシ北方地区ニ軍主力
ヲ後退セシメアリ

0047

陸軍

二 怒江正面七、九月ノ一般戦况

騰越東方地区及龍陵方面ニ於テ因難ナルニ正面作戦ヲ遂行セル
第五十六師團ハ七月上旬迄ニ兵員ノ増耗累加シテ攻撃力ヲ缺如
スルニ至ルト 雨季正ニ最盛期ニ入り道路外ノ行動著シク難渋
トナラテ師團長ハ雨季最盛期ニ至ルハ八月ハ極力各要地ヲ
確保シテ敵戦力ノ消耗ヲ圖リシ、持ヌク策スルト共ニ芒市附近
ニ於テ戦力ヲ充實シ爾後ノ攻勢ヲ準備セリ

次デ七月二十八日師團長ハ日南面ノ敵重慶軍ヲ極力拒止撃撃
摧シ己ムヲ得ザルモ努メテ多クノ敵ヲ牽制抑留シテ、ビルマ方面軍
主力ノ作戦及支那大陸トテ号作戦ニ策應スベキニ任務ヲ受領
セルヲ以テ拉孟、騰越、平遠及龍陵芒市地区ノ各要地ハ飽
ク迄之ヲ確保スルニ決シ各守備隊ニ対シテ日現庫地ヲ死守敵
襲シテ師團主力攻勢ノ支撐スベキニ命令ヲ下達セリ

雨季最盛期ニ至ルハ八月ニ至ルモ敵ハ依然攻勢ヲ中止セズ各守
備隊ハ糧秣彈薬ノ缺乏下前任務ニ其キキ克ク死守敵襲
敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘシ、其ノ任務ニ邁進セリ
（在ビルマ我航空隊ハ拉孟守備隊ニ対シテ彈薬ヲ空輸シ協力セルモ其ノ
怒江正面九月ノ一般戦况
第五十三軍司令官ハ軍作戦ノ重点ヲ第十八師團方面ヨリ
第五十六師團方面ニ轉移シ八月末迄ニ第二師團主力（步兵
ニ聯隊基幹）ヲ芒市地区ニ推進シ且第五十六師團ヨリ抽出シ
アリテ部隊ノ大部ヲ復歸セシメ九月上半期ニ第五十六師
團ヲ併列シテ海緬公路兩側地区ヨリ龍陵攻圍中ノ第一

第五十六師團方面ニ轉移シ八月末迄ニ第二師團主力（步兵
ニ聯隊基幹）ヲ芒市地区ニ推進シ且第五十六師團ヨリ抽出シ
アリテ部隊ノ大部ヲ復歸セシメ九月上半期ニ第五十六師
團ヲ併列シテ海緬公路兩側地区ヨリ龍陵攻圍中ノ第一

陸軍

十一集團軍主力ニ對シ攻勢ヲ採リ公路西方地区ノ戰況進展シ龍陵ヲ解圍セルモ公路東側地区ノ戰況進展セズ更ニ歩兵第一六八聯隊(加所屬)ヲ逐次加入セルガ戰況交絡シ九月七日拉孟守備隊、九月十四日騰越守備隊相次テ玉碎セルヲ以テ軍司令官ハ十四日攻勢ヲ中止シ第二師團(龍陵守備隊ヲ屬ス)ヲ以テ龍陵及其南側地区ヲ確保セルメ第五十六師團ヲ以テ平戛守備隊ノ收容作戰ニ任ゼシメテ後第二師團ヲ中緬方面ニ轉用シ十月上旬以降ハ第五十六師團獨力ヲ以テ龍陵及芒市附近ニ於テ海緬公路遮斷ノ作戰ニ任ゼル

0049

第二章 断第一期作战 (自七月六日至十月五日)

勝越東方地区及龍凌方面に於て困難ナルニ正面作戦ヲ

遂行セル第五十六師団の兵員、損耗累加シテ攻害力

ヲ缺如スニ至ルト雨季正ニ最盛期ニ入り道路斜ノ行

動著ク難渋トナルヲ以テ師団長ハ各要地ヲ確保シ

テ敵戦力ノ消耗ヲ圖ト共ニ芒市附近ニ於テ戦力ヲ充實

シ爾後ノ攻勢ヲ準備セリ

第三十三軍司令部ハ八月末迄ニ第二師団主力(歩兵

二聯隊基幹)ヲ芒市地区ニ推進シ九月上旬第二、第五

十六師団ヲ併列シテ滇緬公路兩側地区ヨリ龍凌攻圍

中ノ第一集團軍主力ヲ討テ攻勢ヲ停リ公路(龍凌方面)ヲ

セルモ九月七日桂軍守備隊九月十四日勝越守備隊

相次テ玉碎セルヲ以テ軍司令部ハ十四日攻勢ヲ中止

シ第二師団(龍凌守備隊ヲ屬ス)ヲ以テ龍凌南側地

区ヲ確保センヲ第五十六師団ヲ以テ平(及真)守備隊

接収作戦ニ任セシメタル後第二師団ヲ中緬方面ニ転用

シ(十月下旬以降)師団独力ヲ以テ龍凌及芒市附近ニ於テ滇

緬公路断ノ作戦ニ任セシメタリ

次テ七月二十八日師団長ハ、當面、敵重慶軍ヲ極力拒止撃退シ已ムヲ

得サシメテ努力ヲシテ敵ヲ牽制抑留シテ、ヒルマ方面軍主力ノ作戦及支那

大陸ト号作戦ニ策應スルニ任務ヲ受領セルヲ以テ拉孟、騰越、平直及

龍陵芒市地区ノ各要地ハ飽ク迄ニ確保スルニ決シ各守備隊ニ對シ現

陣地ヲ死守取陣ニテ師団主力攻勢ノ支撐タルハキハ命令ヲ下達セリ

雨季最盛期ニ七月八日ニ至ルニ及ハ、龍凌攻勢ヲ中止ス各守備隊ハ龍凌厚密ノ敵之下

36, 2

陸軍

第一節 七月上旬策定した第五十六師団作戦

計画の概要

一 作戦方針

師団の両季最盛期内(自七月上旬至九月下旬)各部ヲ以テ依如ニ平島・拉島・龍陵・騰越及ク之ヲ確保シテ敵軍攻ヲ拒止シテ其ノ戦力ヲ消耗セシムルニ主力ヲ芒市附近ニ集結シテ戦力ヲ充實シ爾後ノ作戦時ニ攻勢轉移ヲ行ハス

攻勢開始ノ時機ハ九月初至攻勢方面ハ龍陵ヲ支拂トシテ先ツ拉島次ニ騰越方面ト予定ス

二 作戦指導要領

一 平島(約六〇〇名) 拉島(約三〇〇名) 騰越(約八五〇名) 各守備隊ハ現陣地ヲ確保シテ敵軍攻ヲ拒止シテ師団主力攻勢ノ支拂トス之が為平島三九月末迄ノ軍需品ヲ運カシテ行補給ス

(総人員約三千名)中ノ戦斗兵力

二 芒市地区ニ集結セル師団主力ハ歩兵三大半(一大ノ人々約三〇〇名)砲兵一大(BA四、A四)基幹タルニ砲兵以テ急補給員一、二五〇名ノ別及第師団方面ニ転用シラレル部隊ノ主力(歩四六聯隊(工兵)、A一大P中基幹)ノ歸還後攻勢ニ適応スル如ク戦力ヲ

陸軍

先立ス

3 攻勢準備用向々ナシテ将来ニ就テモ芒市地区ニ対シテ
 敵ノ攻勢有リテモ敢シテ至前ニ以テ南ノ下ノ月中旬
 旬迄ニ芒市平野ヲ包含セル一大據点ニ陣地ヲ
 批成ス

4 芒市ノ内ノ海綿公路ハ燐素及増水ニ
 依リ格別ク克服シテ至前ニ付持シ八月下旬末迄
 二軍中隊約二千名ヲ前進シ芒市地区ニ集
 積ス

5 芒市守備隊ノ防動ニ依リ該方面ニ對シテ
(約書名)ハナクハ既設陣地ヲ確保スルニ

制ス

三、師團長ハ右計畫ニ基キ七月二日龍陵東北方
 地区ニ於ケル攻勢ヲ中止シ師團主力ヲ以テ龍陵
 附近ニ集積シ攻勢ヲ七月七日龍陵東北方ニ
 以テ敢テ急襲スルニ七月七日芒市附近ニ至リカ
 碇シ軍ニ七月十日ヲ以テ平原方面ニ作戦シタ
 ル後芒市附近ニ於テ平原方面ニ對シテ大用セリ

0052

陸軍

第二師 龍陵南側ノ戦及師団主力ノ芒市某宿(七月上旬)

六月下旬師団主力ノ龍陵東側ノ地ニ作戦中一敵

第七十師ノ一部(第ニニ八團?)ハ坦ヲ竹(竜陵

東ヲ平方八村)ヲ根據トシ木康(芒市北方ノ村)

南北側ノ地ニ進出シ竜陵一芒市内ノ公

路ノ交点ヲ遮断セリ

師団ハ龍陵ニ付テは先歩一二三砲隊(四ヲ欠キ) 1140

1480ヲ屬ス

0053

陸軍

←及564 主力ヲ以テ之ガ奪襲打通ヲ企圖シ七月五日夕
龍陵出發六〇五〇〇南面シテ展開ヨリ完了シ六〇六〇期シ

敵背後ヲ急襲セシメタリ 芒市ヨリ派遣セル植田隊(歩一中

野砲一門、山砲一門)及自動車陽動部隊ニ牽制セラレリ

敵背後ニ對シ歩二三聯隊ハ六日一〇〇〇迄持續セル濃霧ヲ

利用シテ攻奪シ六日中ニ公路ヲ打通セルヲ以テ植田隊(歩一中基

幹)ヲ弄杯 側高地ニ設置シ交通 斃傷(備)ニ任ビシ師団

主力ヲ↑ 七〇夕迄ニ芒市ニ集結セリ

第三節 平夏守備隊ニ對スル補給作戰(有電)

一師団ハ平夏攻圍中ノ敵ニ裏ヲ加ヘタル後守備隊ニ軍需品ヲ

補給シ且患者ヲ收容後送ス目的ヲ以テ才一次平夏作戰ヲ左ノ

如ク指導セリ

一上街附近ノ才九師ヲ阻止抑留スルヲ上街守備隊三部ハ兵力

ヲ增加スルト共ニ砲兵全力ヲ撃カテ九日十日ニ亘リ敵陣地ヲ砲

惠ス

陸軍

二歩一三聯隊(編組故)並ハ輸送隊及衛生隊ヲ掩護シ

十日夜芒市出發中寨(正街南方)ヲ科シテ終テ晝夜兼

行一擧ニ平亭南方地ニ進出シ平亭陣地監視部隊

主力タルヤ七六師ヲ三六團ヲ多シ護之ヲ各個ニ毒破シ平

亭守備隊ト連絡シ軍需品ヲ補給シ患者ヲ收容シ後

芒市ニ帰還ス

三平亭守備隊(右)部隊進出ト共ニ其ノ指揮下ニハ出

シテ當面ノ敵ヲ抑留ス

二諸隊ノ行動

一歩一三聯隊ハ先遣隊(五)ヲ以テ七月十日一四日ヲ以テ

二一〇〇丈ノ芒市出發中寨猛推ヲ経テ途中敵ノ妨害ヲ

受クルヲナク十三日小田根(平亭東南方)附近ニ進出シ十四日

拂曉攻寨ヲ準備セリ

二芒市東方上街正面ノ敵ハ十三日以來稍々活潑化シ芒市東

0055

陸軍

北方不康正面ニ敵一部再ニ堤竹方向ヨリ現出セリ上衛守
備隊ハ砲兵隊ノ砲臺ト相俟テ敵ノ抑留ニ勉メタリ

3. 歩一二三聯隊ハ十四日朝来平塚西南方高地ニ在リシ砲ヲ有
スル約ニ當リ敵ヲ攻テ潰乱セシメニヨリ平塚守備隊ト連

絡シ十五日平塚守備隊ノ整備ヲ完了セルヲ以テ甚事ニ反

転帰還スルニ決シ先遣隊ハ十六日一六〇〇主力ハ二二〇〇反転ヲ南

始セリ敵砲兵ハ沈黙シ周以テ敵又靜穩ナリキ十七日一五三〇主

力ノ先頭ヲ以テ中寨東方鞍部ニ達シ中寨北方高地ニ

進出セル迺嘉砲一ヲ有シ約ニヨリ嘉破シテ二二〇〇全刀ノ甚

市周辺集結ヲ完了セリ

第四節 龍陵守備隊ノ防衛戦闘 (自七月上旬至八月下旬)

一 龍陵守備隊ノ強化

七月二日師團力龍陵東北方地区ニ於ケル攻勢中止後

新ニ左記部隊ヲ以テ龍陵守備隊ヲ編成シ

龍陵ヲ確保シ師團主力攻勢ノ支撐ヲ為シタリ

0056



陸軍

龍陵守備隊戰鬥經過概要(自七月中旬至八月下旬)(附圖ヲ四参照)

七月上旬師團主力芒市次テ平曼方面ニ転戦スルニ伴ヒ龍

陵守備隊(人員約二五〇名)ハ全カヲ擧ケテ陣地ヲ補強シ

戰備ヲ強化セリ

敵ハ七月七日以來再ヒ竜陵ニ近接シ来リ十三日未本格的

攻撃ヲ開始セリ守備隊ハ未攻セズ敵ノ大部ヲ陣前ニ阻止セ

ルモ東側陣地一角(孤立ス東山陣地)ヲ喪失セリ敵ハ逐次

兵力ヲ増強シ攻撃ノ重点ヲ六山(東側陣地最高據点)方面

ニ指向シ尚一部ノ敵ハ北方及西南方ヨリ圍攻シ来リ守

備隊ハ二十六日ヨリ二十九日ニ亘リ六山正面ニ反復未攻スル敵

ニ對シ或ハ手榴彈及白兵ヲ以テ或ハ爆藥ト棍棒トヲ併用

スル戦法ニヨリ陣前ニ拒止セリ

八月上旬敵ハ攻撃部署ヲ變更シ新編第三十八師主カラ

古澤山^{七山}ニ第八十七師主カラ六山ニ榮譽第一師ノ一部ヲ北山ニ

第八十七師ノ一部ヲ東山ニ新編第三十九師ヲ西山一山二山

各正面ニ展開シ銳意攻撃準備中ナリシカ十四日天明ト共

ニ全火砲ヲ以テ猛烈ナル砲撃ヲ開始シ戰爆連合三十四機ノ

銃爆撃支援下全面的ニ未攻セズ激戰八時間敵ニ多大ノ損

害ヲ與ヘテ攻撃ヲ頓挫セシメタリ敵ハ尚モ十五日以降一山一山

0058

六山、市街山ニ對シ執拗ニ攻撃ヲ反復セルモ之ヲ陣前至近
 距離ニ誘致シテ短切ナル逆襲ヲ加ヘテ悉ク擊退セリ敵ハ更ニ
 十八日黎明ト共ニ六山正面ニ約三、四、五發ノ砲撃後ハハッ大
 舉未攻シ彼我激烈ナル手榴彈戰及白兵戰ヲ演シテ敵ハ
 退己ハナキニ至リ守備隊ハ同夜五山四山方面ノ全兵力ヲ抽
 出シテ六山一部ヲ奪回セルモ守備兵力損耗現況ニ鑑ミ遂ニ六山
 ヲ放棄シ五山四山三山ヲ確保シ未攻ル敵ヲ阻止セリ
 敵ハ二十三日朝未熾烈ナル砲迫支援下一部ヲ以テ丸山ニ主
 カラ以テ五山ニ對シ猛攻シ来レリ五山陣地ハ敵ノ熾烈ナル砲撃
 ニヨリ殆ント破壊セラレ死傷累加セルヲ以テ同夜五山四山三山
 ノ守備ヲ自主的ニ撤シ復郭陣地ニ集結セリ丸山陣地ハ依
 然確保シテ敵ハ衆ヲ恃ミ我配備ノ間隙ヨリ逐次滲透来リ
 北門附近ハ一時戰況急迫セルモ守兵ノ果敢ナル逆襲ト一山ニ
 山ヨリ増援及坂口砲兵小隊ノ奮戰トニヨリ丸山陣地北端ノ
 線ニ敵ヲ擊退セリ守備隊ハ八月二十五日以降中学校及丸
 山陣地ヲ數次逆襲之ヲ確保ニ勉メタルモ敵砲迫ノタメ逐次陣
 地ヲ破壊セラレ且守備兵ノ減少ニ伴ヒ自主的ニ市街復郭戰
 面ヲ收縮シ爾後激烈ナル市街戰ヲ展開シツ其ノ都度
 敵ヲ擊滅セリ

二十七日^五未援ヨリ守備隊ノ士氣大ニ擧リ西山裏山

甲山須藤陣地(北門)野戦病院宮邸山ヲ死守シ敵ノ反復

攻撃ヲ阻止^ス彈藥^も缺乏シ火砲亦破壊セラレ戦況惨烈ハ極メ

タルモ克ク陣地ヲ固守シテ讓ラヌ此ノ間敵ニ與ヘタル損害四千有

余ノ多キニ達シ軍主力竜陵攻勢ノ支撐トナレリ

龍陵守備隊^兵^隊^編^成^後^の概要^を附圖^を以^て示^す如^し

三、芒市地区ノ状況

芒市ノ東方及東北方地区ノ敵ハ一部隊ヲ以テ出撃

スル止リ本格的未攻ヲ見ザルヲ以テ芒市守備隊ハ一部

ヲ以テ敵ト接触ヲ保持シ其未攻ヲ阻止セシメ主力ヲ以テ

第五節

拉孟守備隊ノ戰鬥

(自七月五日
至九月七日)

陸 軍

一、拉孟守備隊ノ編成及配備

(附圖第五參照)

拉孟守備隊ハ步兵第百十三聯隊長松井大佐指揮ノ

第二大隊及輜重兵第五十六聯隊

下ニ步兵第百十三聯隊主力、野砲兵第五十六聯隊師

團衛生隊、防疫給水部等ノ各一部ヲ以テ編成セラレテ

之ヲ守

警備ニ任シアリシカ、五月上旬步兵主力ハ松井大佐指揮

ノ下北方紅木樹及騰越東方地區ニ作戰中ニシテ拉孟

戰鬥ノ開始時ニハ步兵ハ残留隊トモ稱ス、キ兵力ニ

シテ野砲兵第五十六聯隊第三大隊長金光少佐代リテ	守備隊長トナリ其ノ兵力歩兵約四〇〇名(其他三百名	ノ患者 六月七日ヨリ九日間ニ歸孟ス)砲兵約三百八十	名其他ノ諸隊合計千二百有余名ニシテ患者ヲ除キテ	ハ八百乃至九百ノ戦斗力ヲ有スルノミナリキ	拉孟陣地ハ怒江ヨリ直距離五千乃至六千米齋隔シ海	抜二〇〇〇米怒江ト比高六百乃至七百米ヲ有シ三方面谷
-------------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------	-------------------------	---------------------------

東京・海本ノ！ト納

0063

陸軍

地ニ包ミタル險峻ナル高地ニ堅固ナル野戰陣地ヲ施シタル

モノナリ

二 本道陣地(主陣地重要據点)喪失迄ノ戦斗(7/5-2/8)

七月四日以降 榮譽第一師、第百三師、新銳ナルニケ

師カ各種戦斗資材ヲ以テ、晝夜連續猛攻撃ヲ

セリ
三 對シ守備隊ハ七月十一日陣前ニ之ヲ撃碎セリ敵ハ

0064

45

唯一ノ江防擔任部隊タル第八十二師主力ヲモ轉用シ
松山附近ニ進出セシムルト共ニ軍需品ヲ前送シ十分ナル準備
ヲ整ヘタル後七月十三日以降重矣　ヲ本道陣地正面ニ指
向シ總攻撃ヲ開始シ其ノ空地ヨリスル攻撃ハ猛烈執拗
ニシテ彼我ノ激斗悽愴ヲ極メタリ守備隊ハ晝夜間
断ナキ猛砲撃ト逐次交代來攻スル敵ニ對シ不眠
不休不食死傷累加シ彈藥特ニ手榴彈久乏

東京・海本ノ一ト第

0065

シアリシト雖モ守備隊長ヲ核心トシ敢然白兵ヲ以

テ衆敵ヲ撃退シテ主陣地ヲ死守セリ敵第一。三師ノ

註

來攻ハ該守備隊ノ既往交戦セル五ヶ師中最モ勇敢

ナリ^キ隊守備隊カ最モ^{痛痒ヲ感シ}憚^ハタルハ怒江對岸ノ十五榴

十數門ト五六。高地ヨリ直接照準ニヨリ射撃スル山砲

群ナリキ

八月日攻撃ヲ再興セル敵ハ一日七ノ八千發ノ猛砲撃

ニ膚接シ全陣地ニ來攻シ守備隊ハ主トシテ白兵ヲ以テ之

應戰セリ特ニ本道陣地ニ於テハ火焰發射器破壊筒

等ヲ有スル優勢ナル敵ニ對シ各陣地ヨリ一部ノ兵力ヲ

抽出シテ之カ確保ニ勉メタルモ守備兵ノ大部死傷

シ遂ニ八月二日該陣地ヲ放棄スルノ已ムナキニ至リ

三、關山陣地覆郭陣地重要據点ニ喪失迄(戦斗) (8/5-8/22)

敵ハ本道陣地ニ小砲、口ケト砲、追撃砲等ヲ逐次推進

東京・函本ノード納

0067

シ次期總攻ヲ準備シツツ局部的且執拗ニ攻撃ヲ
 反復セリ我兵力ハ隻眼隻手隻脚ノ重輕傷者ヲ合
 シ僅カニ三百有余ニ過キサレモ將兵悉ク任務ノ重要
 性ヲ銘肝シ全員一致團結連日連夜ニ互リ來攻スル
 敵ヲ陣前ニ擊退シテ克ク複郭陣地ヲ確保セリ此間
 屢々陣前ニ出撃シテハ敵ノ兵器彈藥ヲ奪ヒ或ハ各種
 不要彈藥ヲ改造地雷手榴彈ヲ作製スル等創

意工夫ヲ疑ラシ兵器彈藥ノ欠乏ヲ補ヘリ又九日夜決
 死挺進班七組ヲ以テ敵砲兵及迫撃砲ノ挺進破壊ヲ
 決行山砲三門、十二榴一門、迫撃砲一門、重機三及
 兵器ヲ満載充自動貨車一破壊ノ戦果ヲ收メタリ
 敵ハ本道陣地占領後 第八十三師 及第一百
 三師ノ二ヶ師ヲ以テ重兵ヲ關山及裏山ニ指向シ八月
 十九日總攻專ヲ開始シ二十日引續キ各種火炮ニヨリ約四

時間連續猛砲轟ヲ加ヘ火焰ヲ發射シテ攻真シ来シ

リ守備隊ハ全員鉄火トナリテ白兵ニ信倚シ善戰敢

斗セルモ二十日一六。關山ハ敵ノ地中攻真ニヨリ爆破セラ

レ守兵ノ大分死傷シ遂ニ該陣地ヲ喪失スルノ已クナキニ

至ル守備隊ハ關山ノ重要性ハ拉孟主陣地最内

高據處ニ鑑ミ同夜各地区ヨリ抽出セル兵力ハ各兵種

混成一中約五。名ヲ以テ二回。突入之ヲ奪回セルモ翌日

0070

敵ノ逆襲ヲ受ケ死傷續出彈藥又盡キ再ビ敵手ニ	安 ^{スルニシテ} 夜 暮 ^{トシテ} 二十日更ニ各地区ヨリ爲シ得ル限リノ兵力ヲ(約八 〇名)抽出二十日。三。再度夜襲ヲ決行之ヲ奪還確 保セルモ同日拂曉ヨリ各種火炮ノ猛砲轟ヲ受ケ死 体ハ壕ヲ埋メ土砂崩壊ニ據ルベキ地物ヲ遂ニ該 陣地ヲ撤退セリ。	四複郭陣地内部ニ於ケン戦斗 (23/8 5/19)
-----------------------	--	------------------------------

東京・熊本ノ一ト第

0071

守備隊ハ爾辰音部山ヲ第一線トシ西山ニ至ル

間ニ歩ムノ抵抗線ヲ構築持タカ策セリ

我カ竜陵攻勢ニ伴ヒ敵ハ拉孟ヲ奪回滇緬公路

打通ヲ焦慮シ八月二十八日ヨリ最後ノ總攻戦ヲ開始シ九

月七日迄約十日間連日連夜猛砲戦ヲ實施シ關

山ヨリ音部山ニ重兵ヲ指向シ^テ攻セリ二十九日敵第

八軍ノ全カヲ以テスル猛攻戦ニ對シ遂ニ音部山ヲ喪失

0072

49

シ其ノ西北方地区ニ於テ松山、横股砲兵ヶ舎、西山ノ
 四支莫ヲ確保シ死斗ヲ續ケタルモ敵ハ衆ヲ待ミ裏山
 正面^目逐次壓迫シ同時ニ音部山ヨリ西山ニ重莫ヲ指向シ
 テ猛攻ニ來レリ九月五日西山地区ハ完全ニ包圍セシ止ムナ
 ノ裏山地区ノ兵力約五〇名ヲ轉用シ一時同地ヲ確保セ
 ルモ六日再ヒ完全ニ包圍セラレタリ同日一九〇〇守備隊
 長金光少佐ハ西山ニ於テ敵迫甚砲彈ニ依リ壯烈

東京・大本ノ一トテ

0073

陸軍

ヲ戰死遂ガ歩兵隊長眞鍋大尉代リテ全般ノ指

揮ヲトリ横股、松山陣地ヲ確保飽ク迄海軍公路ヲ

扼守シ死斗ヲ續ケタル九月七日守兵ノ大部斃死シテ

最後ノ陣地横股、陥落モ亦目捷ニ迫リケルハ万策不ツ

ク謹ミテ軍旗ヲ奉焼シ同日一八。全員壯烈ナル戦

死ヲ遂ケタリ

万餘

孤壘敢斗百余日此ノ間敵ヲ屠ル事實ニ十万余敵

0074

滇緬公路打通ノ企圖ヲ完封スルト共ニ大軍ヲ掌テ大

ノ地ニ抑留拒止シテ先ヅ師團主力反毒作戰完遂シ

支撐トナリ次イテ軍主力作戰好轉契機ヲ形成セル

ノ武功ハ絶大ニシテ其

拉孟守備隊ノ勇戦奮斗ハ當ニ鬼神ヲ哭カシ

ムルモノアリ

拉孟守備隊戰鬥經過要圖附圖第五ノ如シ

東京、海軍ノ一トシ

0075



第六節

騰越守備隊ノ戦斗

(自七月上旬
至九月中旬)

(附圖第六及第七參照)

一守備隊ノ兵力及陣地占領

六月中旬師団主力龍陵方面ニ轉戦スルヤ歩一四八聯

隊(一)ハ主力ヲ以テ冷水溝ニ突進 第二大隊ヲ収容シ

タル後逐次戦線ヲ収縮シテ、六月下旬騰越周辺ニ

集結セリ

六月二十七日師団命令ニ基キ 第三大隊ヲ龍陵ニ派遣シ

戰
軍

0076

タルヲ以テ藏重大佐ハ步兵一大隊基幹ノ管番兵ヲ以テ

騰越城及末鳳山ヲ堅固ニ占領シ來攻スル敵ヲ拒止シ

テ師団主力ノ來着迄持久スルニ決シ銃主思戰備ヲ

整ヘタリ

七月上旬ニ於ケル守備隊ノ兵力配備附圖示六ノ如シ

ニ騰越南側高地(末鳳山)ノ戰鬥

第平集団軍主力(五ヶ師)ハ逐次南下シ七月上旬

以來逐次攻圍態勢ヲ採リ攻專ヲ中斷シ七月十日

我至陣地前ニ近接シ七月二十三日迄攻專ヲ開始シ

重点ヲ來鳳山ニ指向シ各種火砲支援下及復來攻專

セルカ守備隊ハ陣前至近距離ニ於テ其都度之ヲ拒止

セリ特ニ二十五日戰爆連合延五七機ノ銃爆集中一日

五〇〇発以上ノ砲撃ノ支援下優勢ヲ示シ歩兵ハ各種

火器及火焰放射機ヲ集中シテ反復來攻セル爲守兵

0078

ノ大部死傷シ三十七日未鳳山ヲ放棄セリ

三、騰越城ニ対スル第一次攻塞ノ拒止(28/7 | 10/8)

第三十集團軍ハ予備第二師ヲ未鳳山ニ、第三六師ヲ騰越

西南角ニ、第一一六師ヲ東南角ニ、第一九八師ヲ北方ニ

配備シ空輸ニ依リ糧彈ヲ補給シ攻塞ヲ準用セル後

八月日以來重点ヲ東南及西南尖角ニ指向シ砲爆

支援下來攻セリ

陸軍

守備隊ハ晝夜連続火力及白昼以テ敵陣前ニ拒止セリ

城壁ハ連続セル集中砲撃ニ依リ五日〇八〇迄ニ十三ヶ

所、各幅約二十米ノ破壊孔ヲ生ジ之ヲ利用スル敵ノ攻勢ヲ

其ノ都方專退セシガ八日遂ニ西南角及東南角ヲ占

領セラレニ〇乃至五〇米ヲ隔テ、相對峙シ交戦ヲ継続ス

四 第二次總攻勢ニ対スル城壁内ノ戦斗 (11/8 - 18/8)

八月十三日藏軍大隊ハ東門ニ於テ指揮中爆彈ノ爲

戦死セルヲ以テ太田大尉代リテ指揮ヲ採リ日量一丁敷

千貫ノ猛砲臺及燧臺支授下工事ヲ利用シテ逐次

未攻スル敵ヲ拒止ニ十六日夜向逆龍衣ニ依リ一時敵ヲ城

壁外ニ駆逐セルモ我守兵六官分サナル爲遂ニ十八日西南

角城壁ヲ喪失ス

五、第三次總攻事ニ対スル城内戦斗 (19/8 - 21/8)

守備隊ハ西門―南門ヲ連スル線ヲ占領セシガ二十一日

東洋一六山納

0081

延百機ノ銃爆薬及一万五千発以上ノ集中砲火ノ支援下

一敵ハ
城壁七ヶ所ヲ爆破シテ未改セル爲一三〇〇南城壁ヲ

喪失ニ新ニ東門一西門ヲ連スル線ノ有側品一〇米附

近ヲ占領セリ

六.第四次総攻事ニ対スル戦斗 (22/8 - 1/9)

守備隊ハ兵力ノ三分ニヲ死傷セルモ二十三日以來全

面的ニ未改セル敵ヲ拒止セリ

0082

七第五次總攻事ニ對スル戰斗 (2/9 - 14/9)

第三十三軍主力ノ龍陵方面ニ對スル攻勢力甚大

ニ伴ヒ騰越ニ對スル攻勢熾烈化セリ特ニ

九月五日拂曉以來ノ總攻事ニ依リ一六〇中第一線

突破セラレ西北角孤立シ守備隊ハ主力ヲ以テ東北角

四合ノ一ヲ確保セリ

爾後敵ノ圧倒的火力制下及復ノ來攻ヲ拒止セシガ

漢口、光山

0083

陸

軍

守備兵ノ大部逐次死傷セルヲ以テ軍旗ヲ奉焼

シ九月十三日、残存セル全兵ヲ以テ敵中ニ突進シ十四日

玉碎セリ

勝越守備隊ガ長期孤之勇戦セシ武功ハ拔群ナリ
勝越守備隊戦斗経由概要附圖ヲ七ノ如シ

0084

55

漢文・東山納

0085

陸軍

第七節 第三軍、龍陵攻勢作戰 (自八月下旬至九月下旬)

一、會戰前一般ノ状況

一、雲南遠征軍ハ全カヲ必心西地区ニ推進シ優越ナル飛行機協同ノ下雨季最盛期ヲ日見シ樂子ヲ得ル限リノ主力ヲ以テ拉孟、騰越、龍陵ニ總攻勢ヲ及復スルト共ニ各一部ヲ以テ平戛及芒市ヲ攻撃シ爾後ノ攻勢ヲ阻テ守リテアリ

又第三軍、依我ノ重点ヲ第五、六師団方面ニ轉移シ第十八師団方面ニ転用セラリタル第五、六師団ノ兵力中歩兵第四六聯隊 (I) IBA 基幹ヲ八月下旬末迄ニ逐次

芒市地区ニ復歸セシムルト共ニ第二師団主力 (基幹ニ聯隊基幹) ヲ先ヅナシカニ地区ニ集結セシメ次ヲ八月末迄ニ逐次芒市地区ニ推進シテ爾後ノ攻勢ヲ準備セリ

3. 第五、六師団ハ既定方針ニ基キ拉孟、騰越、龍陵、平戛各守備隊ヲシテ現陣地ヲ確保シテ攻主力ヲ抑留シト共ニ芒市ニ逐次到着スル補充員一三五〇名及歩兵第一四六聯隊主力 (戦力ハ半減セラリ) 等ヲ掌握整備シテ極力攻勢準備ヲ促進シ八月下旬半迄ニ準備ヲ概成セリ

拉孟、騰越及龍陵各守備隊ハ全將兵一体トナリ至難

陸軍

慘烈ノ戦況下復廓陣地ヲ死守敢斗シテ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘアリト雖モ戦況推移豫断ヲ許ササルモノアリ

果セル哉八月二十三日以來龍陵守備隊ノ戦況頗ニ急迫シ生口ケタルヲ以テ師團長ハ^{四/14}ヨリ^{三十七日五三〇}二十四日芒市北方地区出發龍陵攻圍中敵線ヲ突破シ龍陵ニ突入セルニ守備隊長ノ指揮下ニ入レ軍攻勢カハ支拂トシテ龍陵ヲ飽ク迄確保スル如ク処置スルト共ニ師團獨力ヲ以テ龍陵附近迄先ヅ攻勢ヲ進テ入圍シ意見ヲ具申ス所アリ

六 第三十三軍司令官ハ九月初二期ニテ攻勢ヲ起シテ^四八月末迄ニ龍陵以右ノ敵ヲ重破シテ公路ヲ啓開シ龍陵附近ノ西面地ヲ確保シテ軍展開ヲ容易ナシムルニ軍命令ヲ下達スルト共ニ第二師團長ニ對シ芒市地区ニ對スル前進ヲ促進セシメ第二師團ハ八月二十四ヨリ八月三十日迄ニ遂次芒市ニ到着セリ
五 軍會戰計畫ノ概要左記ノ如シ

九記

龍陵附近

軍ハ九月初二期ニハ公路ニ副フ地区ヲ第二、第五十六師團ヲ併列ニテ攻勢ヲ起シ先ヅ龍陵附近ニ於テ

0087

陸軍

第十一集團軍主力ヲ專破シテ 拉孟ニ向ヒ急進
シ該守備隊ヲ收容シタル後兵力ヲ及轉シテ騰越各
守備隊ヲ收容ス

次平直電

右目的達成後第五十六師團ヲ以テ龍陵 芒市地区ヲ
確保シテ滇緬公路ノ遮断ヲ繞行セシメ第二師團ヲ
ナカ方面ニ転用シテ新一軍ニ對スル作戰ヲ準備ス

二 作戰經過ノ概要

1. 56Dノ龍陵南方地区ノ攻撃手

第五十六師團主力ハ八月十六日夜芒市北側出發

龍陵南方地区ノ攻撃ヲ開始シ九月十日龍陵南方地区
進出シ軍ノ展開ヲ開始シ九月十日龍陵南方地区
(イ) 113(一)ハ二十六夜街城出發海緬公路東側ノ敵ヲ攻撃
シテ竜陵東南側ニ進出ス

(ロ) 146(一)ハ二十六夜木康附近美公路西側地区ノ敵ヲ攻撃

シテ龍陵西南側ニ進出ス

(ハ) 砲兵隊(BA三天A中半15H中)ハ二十七日天明後射撃ヲ
開始シ歩一二三聯隊ノ戰鬥ニ協同ス

(ニ) 作業隊(工兵中兵器勤務隊各)ハ第一師ノ前進ニ伴
膚接シテ龍陵以南ノ公路ヲ補修ス

(ホ) 予備隊(歩中)ハ公路ニ到ヒ定位置ノ後方ニ待機ス

陸軍

諸隊ハ龍陵南側地区ノ險難ナル地形ヲ利用シ頑強ニ抵抗ス新編第三十九師主力及公路東側地区ヨリ出陣セル第七十六師ヲ攻撃シテ激戦ヲ連続セル後九月一日所命ノ目標ニ進出セリ其ノ状況左ノ如シ

(1) 歩一二三聯隊ハ第七十六師第二六團ノ堅固ニ守備セル小松山ニ対シ二十九日〇一〇〇以來突撃ヲ及復シテ一〇三〇占領シ再三巨敵ノ逆龍衣ヲ奪取ス次テ三日薄暮ヨリ龍陵南側公路東側ノ敵陣地ヲ攻撃シ激戦後其ノ大部ヲ占領ス

(2) 歩二四六聯隊ハ新編第三十九師ノ數線ニ亘リ南側ヲ占領セル陣地ヲ主力ヲ以テ南方ヨリ一部以テ西方ヨリ攻撃シ九月一日龍陵南側ノ二層ヲ占領ス

又龍陵南側地区ヨリ軍ノ攻勢

軍ハ九月四日迄ニ第二師團ヲ公路以東龍陵東側ニ第五十六師團ヲ龍陵西側ニ展開シ九月五日攻勢ヲ發起セリ

第二師團ハ五日以來一山及ニ山ニ據リ頑強ニ抵抗スル敵ヲ攻撃シ數回ニ亘リ奪取ヲ繰返シ之ヲ占領セルモ爾後ノ攻撃進展セス我損害甚加シヲ戦斗ニ交綏状態ニ陥レリ

0089

第五十六師団ハ五日以來龍陵西北方地区ノ敵陣地
 ヲ攻奪シ榮倉第一師ヲ奪破シテ七日〇九〇〇之ヲ占領
 シ引燒キ第三〇師(昆明ヨリ飛行機及自動車輸送
 ニ依リ到着シ逐地戦斗ニ加入ス)ヲ攻奪シテ九日夕
 龍陵^西北方地区一帯ヲ占領シ龍陵―騰越道
 ヲ完全ニ遮断ス
 師団ハ十日歩一六八聯隊(大欠)ヲ配屬セラレ攻奪ヲ
 続行シテ敵ヲ東引退^(十日)以龍陵北方地区ニ引出ス
 當面ノ敵ハ逐次達摩山、竜陵峠ノ線ニ後退シ
 守勢ニ立ツに至レリ

60

0

軍司令官ハ九月七日拉孟守備隊九月十四日騰越守	備隊ノ各全員戦死セルト龍陵東方地区ノ戦况	ニ鑑ミ九月十四日攻勢ヲ中止シ第二師団(龍陵守	備隊ヲ配屬ス)ヲ以テ竜陵及其南側地区ヲ占領	セシメ第五十六師団ヲ芒市東方地区ニ集結シ	平夏収容作戦ヲ進テ備セシム	第三軍龍陵攻勢経過ノ概要附圖示ハ如シ
------------------------	----------------------	------------------------	-----------------------	----------------------	---------------	--------------------

0091



一

師団ノ部署

第八師

第五六師団ノ平夏

客作戦

自九月中旬
至十月上旬

守備隊収

陸

軍

九月十六日朝迄ニ芒市ニ集結ヲ完了セル第五六師

守備隊ノ

団主力ハ軍命令ニ基キ引籠キ平夏接収作戦ヲ開

密

始セリ

當時第一軍主力ハ龍陵方面ニ重点ヲ保持シマリテ

第九師主力ヲ上街周辺ニ第七六師ノ一部及新編

第三十三師主力ハ其ノ北側地区ニ在ルモノト判断セリ

0092

<p>師団ハ敵ガ對テノ策ヲ講スルニ先チ芒市―上街―平</p>	<p>夏道南側高地帯ヲ領有シテ平夏守備隊就</p>	<p>中其ノ患者ヲ安全迅速ニ芒市ニ接收スル為テ如ク</p>	<p>部署セリ</p>	<p>1. 師団主力 (歩一三 陸保(一四)、歩一六八 陸隊(一五)) ヲ以テ上街</p>	<p>―平夏道南側高地帯ヲ領有シテ投進部</p>	<p>隊ノ東進及平夏守備隊接收後ノ歸還ヲ</p>
--------------------------------	---------------------------	-------------------------------	-------------	---	--------------------------	--------------------------

原載：丸山節

0093

陸軍

掩護ス

歩一四六輕隊(一)及衛生隊主力ヲ推進部隊ト

シニ平原ヲ向ヒ突進セシメ平原ヲ守備隊ヲ

收シテ芒市ニ歸リ還セシム

二、諸隊ノ行動

一、師団主力ハ九月十七日薄暮ヨリ砲兵隊協同ノ下

上街南側高地ノ敵陣地ヲ攻撃シ十九日迄ニ通

0094

次上衛一平、夏道南側高地帯ヲ占領セリ

2. 挺進部隊ハ九月十八日芒市ヲ車劍ニ基テ平昌ニ

敵抵抗ヲ排除シテ

ニ向ヒ突進シ、二十一日一四〇〇平昌ニ突入シ守備隊

之ヲ收容

敵追索ヲ制シ、
迄ニ

ト連絡シ、同夜反転ヲ開始シ、九月二十八日頃全

員芒市ニ歸還セリ

3. 師団主力ハ挺進部隊ノ反転ヲ掩護シ、その後

其ノ後亦ヲ繞行シ、十月二日迄ニ芒市ニ包圍結セリ

無カシ

源一、丸山勲

0095

第九節 作戰向補給衛生損耗

一、補給

拉孟、騰越、平戛及龍陵各守備隊ハ師団

主力トノ地上補給遮断セラルル向予メ集積セル

軍需品ヲ使用セルモ戦斗長期且激烈化セル

爲各守備隊共彈藥ノ不足ヲ招来セリ

特ニ拉孟及騰越各守備隊ニ於テハ手榴彈缺

0096

之セルヲ以テ航空事情極メテ困難ナリニ拘ラス一郭堂

輸ニ依リ補給セリ又平夏守備隊ニ對シテハ七月

地上補給ヲ行ハルモ生鮮野菜等缺乏シ風土病

流行中ニモ甚シキ

第三軍 主力ノ龍陵攻勢ニ必要ナル軍需品ハ

芒市ニ於テ送集積せんモノヲ以テ補給セリ

巻末 丸山

0097

二 衛生、損耗

一 第五十六師団（總人員數約一、〇〇〇名）ノ作戰期

間（九二日）ニ於ケル損害概テ左ノ如シ

戦死 四八六八名

戦傷 一四三〇名

戦病死 三八六名

戦病延人員一、〇八一名（同一人ニシテ數回発病セルモノハ數

名トシテ計上ス）

<p>戦死者中ニ拉孟、贖越ニ於ケル各守備兵員中</p>	<p>生死不明ナルモノヲ含ム</p>	<p>戦病者中、マリアス、最モ多シ</p>	<p>之、第二師団（総人員數約六、〇〇〇名）、損害概不</p>	<p>尤ノ如シ</p>	<p>戦死 約八〇〇名</p>	<p>戦傷 約八〇〇名</p>
-----------------------------	--------------------	-----------------------	---------------------------------	-------------	-----------------	-----------------

東洋文庫

0099